

○2 番（石井亨君）

2 番 石井亨、質問させていただきます。

9 月の議会のときに町の計画について伺いまして、計画づくりは問題意識の共有とか、学びの場の共有という意味で非常に重要ではないかと、こういうお話をさせていただきましたが、ちょうど来年ですね、2016 年に策定した「土庄町一般廃棄物処理計画」、これの中間見直しの年に当たります。

家庭から出るごみ、事業系一般廃棄物については町の基礎事務ということになります。そもそもごみそのものの減量化と再資源化ってのは課題とされています。埋める、あるいは燃やすということについて、可能な限りその量を減らすことが求められていますけれども、見直しにあたって、来年度の見直しにあたって基本的な方向について質問したいと思います。

まず、廃棄物の排出推移および将来予測、目標設定についての考え方。

それから、昨年度ですね、総排出量ですね、どれぐらい出たか。あるいは、焼却量。

それから、資源化リサイクルした量ですね。

それから、不燃ごみの埋め立ての実績。これらが一体どの程度であったか。それと去年、去年といいますか、土庄町においては最終処分場がなくなったということで、急遽ですね、不燃ごみについて徹底分別をして最終処分に回すという、こういう状況があります。この際の減量状態も併せてご説明をまずいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（濱野良一君）

住民環境課長 島原正喜君。

○住民環境課長（島原正喜君）

石井議員のご質問にお答えします。

土庄町では、廃棄物処理法第 6 条第 1 項の規定に基づき、ごみ処理や生活排水処理の基本計画を定めた一般廃棄物処理基本計画を平成 29 年 10 月に策定いたしました。

平成 28 年度を計画策定年度、15 年後の令和 13 年度を計画目標年度とし、8 年が経過する令和 6 年度を中間年度として、目標値や施策の達成状況等を把握し、計画の見直し等を行う予定としております。

ごみ排出量については、基準年である平成 27 年度の 6900 トンからマイナス 10%以上を目標としており、その数値自体は、令和 4 年度の実績で 5913 トンとなっており、すでにクリアしております。

その内訳では、可燃ごみの実績が 4500 トンで、全体の 76.1%。不燃ごみ実績は 253 トンで、全体の 4.3%。焼却残渣の実績は 769 トンで、全体の 13%。資源ごみの実績は 391 トンで、全体の 6.6%となっております。なお、有限会社小

豆島への委託につきましては、不燃ごみを島外搬出するにあたり、令和 2 年度から委託しており、混在する可燃ごみや資源ごみを選別しております。

先ほど、令和 4 年度の不燃ごみの実績は 253 トンと申し上げたうち、豊島の埋め立て分 63 トンを除いた 190 トンが、島外搬出となっており、有限会社小豆島への搬入総量は約 335 トンであることから、約 57%の削減につながっております。

一方、資源化については、資源化率については、15%以上を目標としておりますが、令和 3 年度実績では 6%とまだ低い状態であります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

石井亨君。

○2 番（石井亨君）

ありがとうございます。

破碎選別で 57%削減ですね。破碎選別じゃない、ごめんなさい。今のは、徹底分別をやることによって 57%削減と。当初 2016 年に計画を立てた段階では、そもそもをですね、令和 4 年、ごめんなさい。令和 6 年ですが、見込みとして 1085 トンの不燃ごみが出て、そしてですね、このうち破碎して資源化をして、そして 852 トンが最終的に埋め立てに回されるという、こういう予測が立てられていたかと思えます。そうするとですね、不燃ごみっていうのは当時の想定ではですね、排出量総量の中のおよそ 20%が不燃ごみであって、そのうちのまた 21%程度が資源化されて、残りが破碎残渣として最終的に埋め立てられるという、こういう想定で、不燃ごみの中から 4%程度のリサイクルがされると、こういう想定が計算値だったと思うんですが、今のお話ですと、事業状況が変わった、最終処分場がなくなったので徹底分別をして減量化するということだったら 47%まで、57%削減することが実績として出てきた。

詳細な検証は来年度を行うことになると思うんですけども、現在、破碎設備の整備が進められてます令和 8 年度から、たぶん、これが稼働する、そうなったときに、当初予定では資源化率というのが 14.7%まで延ばせるんじゃないかという、こういう想定になってたと思うんですが、逆に言えばですね、今、資源化率が全体としてはそんなに伸びてはいませんが、破碎資源化、燃えないごみの破碎資源化で、リサイクルが 4%程度できるという想定だったものが、実際、今、徹底分別で 57%ぐらいできているという、こういう状況になる。この比較検証は十分来年やってみる必要があるんじゃないかなというふうには思っています。ごみの排出量自体はですね、随分減ってきているというふうに評価されています。というか計画通り、計画を上回って減っていると、こういう状況になっていますが、人口も当時の予測よりは、当時人口が減るので、ごみが減る。そのことは加味してるわけですけども、人口の減りの方がやっぱり計画よ

りも少し、予測よりも少し早いという状況があつて、人口も減っているということなので、想定範囲で減っているという状況かなと思うんですけども。小豆島、とくに土庄町ですね、わが町の計画を立てるわけですけども、県内全体で見ると、実は土庄町の最終的な埋め立ての依存率とか、それから焼却の数字がさっき出ましたけど、焼却の依存率が非常に高い。逆にいえば、リサイクル率が非常に低いということになるんですが、例えばですね、徳島県の上勝町では現在すでに81%のリサイクルというのを実現しています。資源化率ってのは実現していると。県内ではですね、三豊市が64.5%すでに実現しているという、こういう状況あります。それぞれに事情違いますし、とくに県内三豊市の場合は、バイオマス燃料化プラントが稼働して、いわゆる生ごみの系統ですね、これがすべて乾燥、発酵の上で燃料化するという民間事業に委託するというかたちになっていると。これで県内でも突出して高いわけですが、県内の平均で見てもですね、2019年度で18.2%、全国平均で19.6%、これが実績値です。

2020年度、国の平均値ちょっと見てないんですが、2020年の国の目標値は27%であつたっていうこういう数字が出てます。これに対して、わが町の計画というのは2031年で15.5%、状況からすると相当遅れているというか、課題が多く残っているというのが今の現状だと思います。乱暴な言い方ですけど、上勝町が81%で、うちの町の実績を差し引いた70%あまりの数字、これは、方法はいろいろあると思いますが、いずれにしても、資源化できる可能性、あるいは余地の残っているごみだというふうに見ることができるんだと思います。

それでですね、次の質問に移っていきたいと思うんですが、令和3年の香川県廃棄物処理計画、処理計画ですね、これ廃掃法に基づく5カ年計画ですけど、これで見ますと、香川県県民1人当たりの廃棄物の排出量ってのは868グラム、1日当たりですね。一番少ないのは、まんのう町で543グラム。一番多いのは、小豆島町で1585グラム、まんのう町の3倍近くあります。次いで、多いのは直島町。次いで、琴平町そして土庄町ということになりますが、ここでも1101グラム。この数字、年度によってかなり変動はするんですが、常に土庄町は上位にあります。この数字でもまんのう町の2倍を超えるという状態です。同じ県内で暮らして消費水準や消費の形態がそれほど異なっているとは考えにくい。地名からいうとですね、小豆島、直島、琴平となると、観光地だから多いのかなと、こういうふうには県外の方が持ち込む一般廃棄物というのが増えるからかなと思ったんですが、2015年の香川県平均の一般廃棄物全体に対する事業系一般廃棄物の比率ってのは31%強で、これは増える傾向にあります。大体は3分の1が事業系一般廃棄物で、観光に伴う事業系一般廃棄物がわが町は多いのかなと思ったんですが、土庄町ってのは17%弱程度。そうすると、常に土庄町の

ごみは県内平均よりかなり多いという状況になるんですけど、質問ですが、なぜこの町は1人当たりのごみの排出量が多いと思うのか。そして、計画ではごみの質分析ってやっていますよね。燃えるごみの中身は一体どういう内容なのかという質分析をやっていますが、これを実施してるのは、広域事務組合なんですかね。これが、どこがやってるかということと、もし広域事務組合がやってるんだとしたら毎年この変遷というのは町の方とちゃんと連携、情報共有って、これできているのかどうかということをお伺いしたい。

それからですね、3つ目としては、この計画を立てた段階で、2017年から2019年にですね、分別収集にあたっての調査・研究をやるんだと、それから2020年から21年にかけてはモデル地区を設けて先行実施と効果の検証をやるんだということが書いてあるわけですがけれども、これはやっているのでしょうか。やっているのであれば、その成果をお伺いしたいと思いますし、やっていないのであれば、なぜやれなかったのか、その理由をお伺いしたいと思います。

そして、今、減量化・資源化を上げるためには何が課題だと考えているのかお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（濱野良一君）

島原課長。

○住民環境課長（島原正喜君）

石井議員の2つ目の質問にお答えします。

まず1つ目、生活スタイルによるごみ排出量の差というのは、島内・島外でそれほど差はないように思われます。思いますに、リユース、リサイクルの意識およびその機会が少ないことが要因の1つではと考えております。

2つ目のごみの質分析については、小豆広域で行っております。

情報については随時共有しており、例えば、最近プラスチックごみの増加が見受けられるなどといったところがございます。

3番目、計画書の68ページに記載しておりました、再資源化、再資源化計画の中での調査・研究からなる一連の事業等については、資源ごみの収集を含む現場の人員、機材、スペースおよびリサイクル施設の制約等により実現できておりません。代わりに、令和2年度にごみの分別ガイドブックを両町合同で作成し、全世帯に配布しております。そして、その講習の要望があれば、職員が赴き説明会等を実施しております。

4番目の分別の課題やごみの減量化につきましては、資源ごみとして回収できる発泡スチロールの容器、トレーの分別等がいまだ十分でないことや、フードロス問題の解消等がございます。

今後の方針につきましては、昨今の廃プラスチック資源化等の社会情勢を加味し、軌道修正をかけながら資源ごみの品目追加を行い、可燃ごみ、不燃ごみ

の排出量の削減、再資源化率の向上を目指します。

令和 8 年度には、不燃ごみ等の中間処理施設が稼働する予定であり、資源化の向上が期待できます。加えて、ごみ出しの分別の再細分化も検討し、減量化に向けた取り組みを行っていきたいと思っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

石井亨君。

○2 番（石井亨君）

今の表現でですね、今のご回答の中で破砕資源化、これが実現したらリサイクル率が向上するという、こういう話がありましたね。ありましたね。今、私が先ほど申し上げたのは、これが逆になってしまうのではないかと。再分別化、細かく分類して埋め立てごみをできるだけ減らすっていうことをやったら 57% 下がりました、破砕して分類することやったら、逆にそっちへ戻したら、かなり大幅に後退することにはなりませんかっていう、そういう問題があるんじゃないか、ていうことを私は申し上げたので、これは来年度ちょっと本格的に検証していただきたいなど。ただ、一旦施設を作ってしまうと、広域でやっているものですから、当然負担金を納めて対応していかなくちゃいけないという、こういうことになっていく。そういう課題が、そもそも不燃ごみをここまで再分別化するという前提が最終処分場があるうちはなかったもので、ちょっと逆転をしたかなと。だから、その部分も含めて、来年度はきちんと検証しておかないといけないと思います。

もう 1 つ、もう 1 つはですね、燃やすということの方についてですが、今月ですね、ついこの間ですけど、12 日に COP28 が終わりました、CO2 削減課題に対しての世界合意というのが出ていますが、CO2 削減、排出削減の年次数値ですけれども、2019 年度比で 2030 年に 43%削減、35 年には 60%削減、2050 年には 100%削減という、このシナリオが出ています。

土庄町でのごみを燃やすと CO2 が出るわけですが、土庄町での 2015 年のごみ処理に係る CO2 の排出評価というのは、収集運搬まで全部含めて年間 1982 トンという、こういう数字が出ています。そのうちのおよそ 95%が焼却による CO2 排出で、さらにですね、プラスチック由来と考えられるものだけでも 90.4%という、こういう評価が出ています。これがどれぐらいの量かという、土庄町全体での全ての活動評価が、年間 20 万トン程度の排出。そのうちの 2000 トン弱が一般廃棄物の焼却に伴うもの。全体活動からいけば 1%程度ということになります。逆にですね、ごみを燃やす、県内全域で年間燃やしてる量から換算するとですね、この家庭ごみ事業系のごみを燃やすだけで年間 9 万 2000 トン程度の CO2 が出ていると、温室効果ガスが出ていると、これはですね、香川県下全域 8 万 8000 ヘクタールが年間に固定できると試算されている

CO2 量 9 万 1000 トンを少し上回ってしまして、ここに対する要求も相当大きいものが次々出てくるんだらうなと思います。

わが町では、PPA がやれないかということで、公共施設の屋根に太陽光発電パネルを乗っけて、これを民間投資でやっていただいて CO2 削減をやろうという議論が出てきていますけれども、中間、先の間集計では、この効果というのは、年間 185 トン程度の削減が期待できるというこういう数値が出ていたけど、これはごみを燃やしてる量を 10%減らせれば同等の効果が出るというこういう数字になります。

この焼却炉についてですが、2016 年のこの計画では焼却炉の老朽化が問題だっていることは示されています。そして、その対応についてはですね、2 町それから広域のですね、3 者連携による「土庄町・小豆島町地域循環型社会形成推進地域計画」の「焼却炉長寿命化計画」ということに委ねられているという、こういう状態になっていると。

それから昨年度ですね、策定された「香川県ごみ処理広域化・集約化計画」には、小豆ブロックでは焼却炉の更新が「課題」というかたちで位置付けられていて、基本的に「今までどおり燃やしましょう」という、こういう方向になってるんですが、実際に燃やされている廃棄物、この計画に出た実績値で見れば、50%程度が燃える部分であり、40%程度は水分であり、残りが灰分と。水分が含まれているってのは、いわゆる生ごみとか、剪定くずとか、雑草なんですよ。こういうものを分離して燃料化したために、三豊市は 64%を超えたって、こういうことになっている。

それから、当時の計画ですすでに出ていますけど、わが町では、未分類のプラスチック類回収が、現在分別回収というのが軌道に乗っていない未分類のものが相当量あって、この辺がさっきのプラスチックによる CO2 が 90%台という、こういう数字につながってくるわけです。

この 2 つを大きく対応していくということができればですね、今の年間の焼却量、年間 5000 トン内外を燃やすという状況にはなっています。けれども、1000 トン以下への削減ってのは、十分無理のない構想の範囲内なんじゃないかなと。そうするとですね、日量に換算していくと焼却量は日量 3 トンとかそういう規模になっていく。果たして、本当に焼却炉があるんだらうかと。炉という形で整備してやるのか、それともですね、思い切り量を減らすという、可能な限り量を減らしていく中で、もう焼却そのものは炉を持たずに民間業者に焼却委託するということか。少なくとも次の見直しではですね、焼却炉を持たないという選択肢を視野に入れて検証していくべきだと。私としてはですね、むしろ焼却炉は作らないという覚悟の中で、減量分別化に取り組むべきだと思いますが、新規焼却炉を持たないという選択を視野に入れることについての考え方について

てお伺いしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

島原課長。

○住民環境課長（島原正喜君）

石井議員の3つ目の質問にお答えします。

CO2削減の焼却炉のあり方についてでございます。

クリーンセンターの焼却能力は、現在6割程度まで低下しておりますが、焼却時間を長くして対応しております。このことから、現施設の長寿命化を図りながら、次期施設のあり方について、小豆広域、土庄町、小豆島町の3者で検討に着手したところです。その処理方法につきましては、焼却にとどまらず、トンネルコンポスト方式であったり、今、議員のおっしゃられた島外への搬出など、多面的に検討しているところでございます。以上です。

○議長（濱野良一君）

石井亨君。

○2番（石井亨君）

焼却炉を持たないというですね、こういう選択肢を十分に検証していただきたいと思います。というのは、来年度詳細は検証することになるわけですが、費用対効果の問題もありますが、その破碎して資源化できる部分を分離するというよりは手分別の方がよほどリサイクル率が高いというのは、はっきりと、これ数値で出てるんだと思います。今日の概算でも十分出てますので、相当開きがあります。一旦設備を作ってしまうと、広域でやってるものですから、とくにその負担金というのは避けられないという、こういう状態になってしまいますので、その点、焼却炉を持たないという選択肢を1つの視野に入れたかたちでの十分な検討を行っていただきたいと思います。

それとですね、こういう問題については、廃棄物そのものが一体どういうものでできてるんかって、その内訳を分析して、個別にその取り扱いでどんな選択肢や対策方法があるのかというのを検討する。それから、もちろんどれぐらい費用がかかるか。こういうことに基づいて、将来の方向性を絞り込んでいくということになるんだと思いますし、実際にやるときには当然、町民の理解と協力というか、当事者として参加していただくということが絶対不可欠になるわけです。ところがですね、この土庄町一般廃棄物処理計画基本計画ですね、これネットにも公表されてないんですね、ネット上でも出てない。町民の役割ってこん中書いてあるんだけど、それをパンフレット等を出してるのかもしれないませんが、少なくとも町民が閲覧することもなかなか難しいという状態にあった。そういう状況もあってですね、それからもう1つ先ほど言われたように、町の計画でありながら、いろんな機関と調整しながらやらないといけない

という、こういう問題があります。例えばですけど、ごみの広域がやってるごみの質分析ですね、こういうものは一般の町民にも公開していくとかですね、あるいはいろんな関係機関が意見交換するなど、多様な工夫をしていかないとなかなか問題意識の共有するのは難しいと思うんですが、この点についての現時点での考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

島原課長。

○住民環境課長（島原正喜君）

石井議員の4つ目のご質問にお答えします。

町民へのごみ問題に関する問題意識喚起については、「町広報とのしょう」を活用し、毎年10月号に記事を掲載するとともに、防災無線や各地区公民館だよりで周知するなどしております。まだまだ、分別意識を高めていく必要があることから町のホームページには、ごみの捨て方だけでなく、生ごみ処理機設置補助金などの情報、リサイクル、リユース情報など幅広く情報を提供してまいりたいと考えております。

また、可燃ごみと一緒に燃えない粗大ごみが出されるなど、一定のマナー違反も散見されますので、当事者としての住民の意識向上や、参画の方策についても探ってまいりたいと考えております。

ごみ問題は、土庄町、小豆島町、2町に共通する課題であり、クリーンセンター、リサイクルセンターを運営する小豆広域とも一緒になって中間処理施設の建設を進めるなど、現在も3者が連携して事業を実施しているところではありますが、石井議員のご指摘のとおり、今後とも連携を深め、協働できることを増やしてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

石井亨君。

○2番（石井亨君）

ありがとうございます。

技術的にどうするかという、こういう問題もありますけれどもですね、今ちょっと話にも出ましたが、今、私が質問しているのは、土庄町一般廃棄物処理計画、これ2016年に作られました。「土庄町・小豆島町地域循環型社会形成推進基本計画」、これ2019年に作られて、廃掃法に基づく「香川県廃棄物処理計画」2021年に作られて、さらに「香川県ごみ広域化集約化計画」2022年に作られてますが、これ、それぞれにみんな土庄町のあり方って書かれてるんですよ、課題とかですね。で、その数字が微妙に違うので、どう読んでいいかわかりませんが、こういう廃棄物に対する技術的な課題と同時に、こういう一般廃棄物については香川県も市町の計画を書いているんですけれども、廃棄物処

理計画は、再来年、令和 7 年度に次期策定になります。もう 6 年度、来年から各市町の排出状態とかの集計にかかっている、推計にかかっているんだそうですけれども、「市町の積み上げなんですか」って聞いたら、「いや、そうじゃありません」って、「県独自でやります」という、こういう話であって、しかし県の立場からすると、「一般ごみの話は、市町の管轄ですよ」と、こういう話になります。

広域でうちはやっているわけです、部分的にはね。そうすると、広域は何をしているかっていうと、両町から出てくるごみについて、資源化の部分では、これを資源ごみとして出荷する。あるいは焼却をしている。で、まもなく不燃ごみについても、破碎分別に取り組むという、こういうかたちになるわけですが、これは両方から出てきてるごみを今の循環型社会形成推進基本計画に基づいて、交付金申請して設備を作って両町から負担金を求めますという、こういうことをやっている。

実際にごみをどう減らすか、どう分別するか、収集するか、というのについては、これは各町がやるわけですが、広域との関係もあり、あるいはその関係上から小豆島町とも歩調を合わせる必要があるという、こういうことになるわけですね。その関係機関、それから町民との問題意識を一体どういうふうに共有しているのか。一体誰がイニシアチブをとって、どこがこれやっていくのかってということについて、なかなか分かりにくいというか、曖昧になっている。ここの仕組み上の問題というのは、実はごみを減らす上での一番大きな課題になってるんじゃないかなって、こういう気がします。この点についても、実は来年度の調査できちんと検証していただきたいなど、こう思うんですけど、実際の作業ということになると、コンサルへ委託すれば、その検証過程ってのは、なかなか庁内でも共有するの難しくなるし、もちろん広域や小豆島町と共有というのは、さらに難しくなります。

その一方で、「じゃ、担当課がちゃんとやりなさい」という話になるのかっていうと、ルーチン業務に追われているっていう実態からすればですね、これはマンパワー的に無理があるんじゃないかなと。そうすると、住民環境課の課題、あるいは担当者の課題という位置付けではなく、全庁的な取り組み課題として考えて、ぜひ取り組んでもらいたいというふうに思います。これ、もう意見にとどめておきます。

時間ありませんので次の質問に行きますが、海ごみの処理ですね。

今年度、ボランティアによる海岸ごみ、海岸清掃の際にですね、産業廃棄物に該当する漁業用の浮遊ごみがまじっていて、その処理が問題になりました。

香川県下でも時々同じような事例が起きるとは聞いていますが、香川県に確認してみますと、環境省に対して海ごみの対応の仕方について、とくに浮遊ご

みと化した排出者不明の産業廃棄物扱いのごみですね、このごみについて、このごみの処理責任、あるいは役割をどうするのかということをごちゃんと明確にしてほしいということをご国に要望しているという、こういう現実があります。

海ごみの問題も、今の廃掃法上の廃棄物処理計画もいずれも環境省の所管です。私の個人的な意見ですけど、海ごみを何とか回収しなさいということをごどんどんご国として進めているわけですから、ご県の廃棄物処理計画の中にちゃんと誰が対応するべきものか書かれる必要があると思う。そのために、「ご国が方針を示してください」ということを、ご県は繰り返しご国に要望しているわけです。

去年ですね、去年の12月に生物多様性条約の第15回締結、締約国会議がカナダのモントリオールで開かれて、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」という名称の合意ができました。この合意はですね、23のターゲットを設けて目標3では、陸と海の少なくとも30%以上を保護区にして、これ以上劣化しないようにそれぞれの国が努力すると。

目標の2は、劣化した生態系の少なくとも30%の再生を進めるということが合意されてます。これを受けて今年の3月、日本では、生物多様性国家戦略を閣議決定しました。昆明・モントリオール合意をそのまま採用したってこういうかたちになってますが、「30%を保全する」「30%以上を回復させる」、こういう目標を掲げたわけですけども、海域についてはですね、これに先立って2016年に生物多様性の観点から重要性の高い海域というのを270、全国で選んでます。

実は、豊島・小豆島地域っていうのはですね、海域番号13504番として指定されてるんですね。「こういうところを保全しなさい」、「海洋ごみをどんどん集めなさい」、全部これ環境省がやってるんですね。そういう意味ではですね、廃プラスチック類を中心とする海洋ごみですけども、海へ出さない、出した海のごみをどう回収するか、これが大きな課題です。でも、実際にこれを集めると、そうすると持って行き場に困るという、こういう状態が現に発生してるわけですけども。町としてですね、ご県とかご国に対して問題提起や要望するのは行っているんでしょうか。

もう1つはですね、例えばですが、町も海ごみの回収、ボランティアの方々がたくさんやってらっしゃいます。一緒にボランティア参加して、ごみの実態を一緒に確かめてみたり、そこで確認された事例を現場の住民なり、町としての意見として、「こういうところをきちんとしてもらわないとやれないよ」という声をきちんと上げていくべきだと思うんですが、こういうことをしているのか。あるいは、その考え方についてご意見を伺いたいと思います。

○議長（濱野良一君）

島原課長。

○住民環境課長（島原正喜君）

石井議員の 5 つ目の質問にお答えします。

海ごみの処理については、令和 4 年度からボランティア清掃団体登録制度を実施しており、収集用ごみ袋の提供のほか、清掃活動で収集し、分別されたごみの回収を行っております。現在は 20 の団体の登録があります。

また、企業版ふるさと納税の寄付金を活用したボランティア清掃支援事業をスタートさせておりますが、まだ寄付金自体がなく、実行はできておりません。

海ごみにつきましては、処分費用の問題や一般廃棄物の範疇で処分しきれないなどの課題がありますので、住民環境課だけではなく、関係各課と協議、連携して海ごみ回収の推進に努めてまいりたいと考えております。

また、県や国に対しても、現場からの声を伝えていきたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

石井亨君。

○2 番（石井亨君）

ありがとうございます。

私見ですが、例えばですね、現状の海ごみ、2050 年には海洋中の生物よりも浮遊するプラスチックのほうはるかに多くなると、こう予測されています。漁業者が底引き網やったら魚よりもごみの方がよほど多い。今もそれに近い状態ありますけれども、そしたらですね、魚だけではなくって一緒に拾い上げたごみを回収、分別して出荷すると、これも仕事になるんだと、対価が出るぐらいの仕組みを作らないと、海ごみなんて到底太刀打ちできないんじゃないかっていう、こういう気がします。ここが現場なわけです。制度や法律を作るのは国ですけれども、現場で何が起きているのかっていうことを踏まえて、ぜひですね、国や県に対しても、ちゃんと方針を明確にしてほしいということを町としても意見として積極的に出していきたいと思っております。

これをお願いして、私の一般質問を終わりたいと思っております。ありがとうございました。